

DA. 記録・報道(障害関係)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
●		DA95-790	C-1	第30回全国身体障害者スポーツ大会 ゆめびっくあいち	1994年11月12日(土)～13日(日) 愛知県名古屋市長久手町	56
	●	DA2000-078	C-1	徹子の部屋 ろう者女優が初主演 忍足亜希子	映画「アイラブユー」で主演デビューした忍足亜希子さん。彼女は、ろう者自身がろう者の役を演じるということで注目を浴びた。忍足さんに生い立ちや映画でのエピソードを伺う。	26
	●	DA2001-087	C-1	きらっといきる 笑いでバリア無くしまっせ！ ～手話落語家・福田治亭くいだおれさん～	聴覚に障害を持つ福田治亭くいだおれさんは、手話落語を始めて15年。「落語は“話の芸”です。手話落語は“手の芸”です。」と語るくいだおれさん。くいだおれさんの創作した手話落語や視覚障害者を交えての「バリアフリー落語」を紹介する。(福田治亭くいだおれ・桂福団治)	30
	●	DA2001-088	C-1	きらっといきる 手話のアートで舞台をつくる ～劇団「あしたの会」のみなさん～	京都市の劇団「あしたの会」はろう者と健聴者が共に芝居を作っている劇団。「ろう者が健聴者に合わせるのではなく、対等に生きる社会を」と、呼びかける「あしたの会」から俳優の蒲原敏光(かまはらとしみつ)さん、金博茂(きむばくむ)さん、山脇立嗣(やまわきたつし)さんを迎え、芝居にかける思いを聞く。(蒲原敏光・金博茂・山脇立嗣)	29
	●	DA2002-095	C-1	きらっといきる 手で読む手で聴く手で話す ～「すまいる」の盲ろうの仲間たち～	視聴覚二重障害者福祉センター「すまいる」の代表、門川紳一郎さんと副代表の綾城重男さんをお迎えし、お話を伺う。VTRで同じ障害のある仲間と語り合える場「すまいる」のありかたを説明する。手話通訳は山口敦子さん。(小林紀子・ジェフ・バーグランド・門川紳一郎・綾城重男)	29
	●	DA2002-096	C-1	にんげんゆうゆう シリーズ ろう者の豊かさを伝えたい① 言葉のバリアを越えて	12年前の「遙かなる甲子園」に続き、ろう者を主人公にした映画「アイラブユー」を撮った大澤豊監督がゲスト。ありのままのろう者像を描くのが、この映画の狙いで、ろう文化やろう者の価値観を正しく把握するためには、日常の交流が大切と、ご自身の経験から話される。(大澤豊)	29
	●	DA2002-097	C-1	にんげんゆうゆう シリーズ ろう者の豊かさを伝えたい② あなたに届け私の思い	ゲストに忍足亜希子さんを迎え、二度目の主演映画「アイラブ・フレンズ」の一部を紹介しながら、この映画にかけた思いや役づくりについて伺う。映画の題名どおり仲間は大切で、励まし合い助け合うことは、ろう者とか聴者とかは全く関係なく人間として大切だということ、今後の抱負を熱く語られる。(大澤豊・忍足亜希子・妹尾映美子(手話通訳))	29
	●	DA2002-098	C-1	ザ・プロフェッショナル 育て！音を伝える犬～有馬もと～	1996年に長野県上伊那郡宮田村に日本聴導犬協会が発足した。今までに4頭を送り出し、8頭を訓練中だ。耳の不自由な人に生活の中で必要な音を届け、安心して暮らせるように支えるのが役割と、聴導犬トレーナーの有馬もとさんは語る。訓練の様子も紹介。(有馬もと・山根一真)	29
	●	DA2002-105	C-1	社会福祉の実際 障害者福祉の実際	福祉を学ぶ人を対象に、障害者福祉の変遷や施策について解説した番組。 日本の福祉の歴史や、WHOによる障害分類、ノーマライゼーションやバリアフリーなどの理念、さらに障害者基本法などの法律についてわかりやすく解説する。また、生活訓練や職業訓練といったリハビリテーションの現場、地域社会での障害者のくらし、新しい福祉サービスなどを紹介する。	33
	●	DA2003-109	A-3	国際フォーラム 障害者差別をなくすために	当団とDPI日本会議が主催した「障害者差別禁止法」を考える国際フォーラム」のパネルディスカッションの模様。障害者差別禁止法は世界40か国以上にあるが、日本がまだ制定していない点を中心に話を展開する。(福島智・東俊裕・平野みどり・北野誠一・永六輔・村田幸子)	60
	●	DA2003-110	A-3	聴覚障害者のみなさんへ 手話の音楽に挑む ～パフォーマンスグループ「Deaf-Unit」～	手話固有のリズムや表現を生かした、新しい「手話の音楽」を創る活動する若者のグループ。ライブに向けて、ろう者と聴者が協力し合いながら、時にぶつかり合いながら、懸命に新しい音楽を創りだそうとする姿を見つめる。(阪本誠)	15
	●	DA2003-111	A-3	にんげんゆうゆう シリーズ 「障害者インターナショナル世界会議札幌大会」③ すべてをバリアフリーに	10の分科会のうち日本の障害者の関心が高い「アクセス」分科会を取材。交通機関、コミュニケーションなど様々な分野におけるバリアフリー化をめぐる、世界的な障害者リーダーに最新情報を聞く。(渡辺英紀・中西由紀子・マイケル・ウィンター)	29
	●	DA2003-112	A-3	にんげんゆうゆう シリーズ 「NHK障害福祉賞から」③ 手話が育む笑顔と友情	中学校教師の福永泰子さんは、聴覚障害のある生徒とともに初めて手話を学び、徐々に生徒の心を開いていった。手話が、本人だけでなく他の子供たちに影響を与えた様子を伺う。(渡辺英紀・福永泰子)	29
	●	DA2003-113	A-3	にんげんゆうゆう シリーズ 「老後の食・改善作戦」① 40%栄養不足	病院や施設に入所している高齢者の40パーセントに、栄養不足が見られるという衝撃的な調査結果が報告された。栄養士により十分に栄養の管理をされているはずの病院や施設で、なぜ栄養不足が起こるのか。そこには必要栄養量を画的に決めてきた従来のシステムの不備と、栄養士が高齢者の実情を把握し切れていないという現実があった。高齢者の栄養不足と、それを補う補助食品の簡単な調理について紹介する。(毒蝮三太夫)	29
	●	DA2003-114	A-3	きらっといきる 僕の想い、絵で語ります ～プロの画家を目指す河村武明さん～	脳梗塞で倒れた後遺症で、失語症・難聴・右手のマヒがある河村武明さん。笑顔を売りに、ストリートで自作のアクリル画を販売している。絵と詩で伝えるメッセージはいつも大人気。(小林紀子・ジェフ・バーグランド・牧ローニ・河村武明)	29
	●	DA2003-115	C-1	きらっといきる 僕の世界はカメラで広がる ～鳥取ろう学校 尾田将史君～	鳥取ろう学校高等部3年の尾田将史君は、中学1年の時初めてカメラを手にし、コンテストに入賞する先輩たちにあこがれて写真部に入部。現在は中心メンバーとして部活で県外に行くことも増え全国各地に友達ができた。将来の夢は鳥取ろう学校の先生になることと語る尾田君の日常を紹介する。(高田啓一・尾田緑・ジェフ・バーグランド・小林紀子・牧ローニ)	30
	●	DA2003-116	C-1	きらっといきる 聴導犬は夫婦のホットライン ～「みかん」と暮らす岸本淑子さん宗也さん～	平成14年5月「身体障害者補助犬法」が成立し、交通機関や公共施設で補助犬の同伴を拒否できないと定められた。大阪市の岸本さん夫妻のもとにいる聴導犬のみかんが、生活に必要な音を8種類記憶し、どんなふうにお二人をサポートしているのかを紹介する。(ジェフ・バーグランド・小林紀子・牧ローニ・山口八千代)	29
	●	DA2004-125	A-3	きらっといきる 見える音感じる言葉を演じます ～人形劇団「デフ・パペット・シアター・ひとみ」～	聴覚障害のある人となんか一緒に作る日本で唯一のブロンズ人形劇団。見た目に面白い楽器で「見える音」を演出するなど、独自の表現を生み出してきた。役作りする新人を団員たちがサポートする様子を伝える。(庄崎隆志・善岡修・やなせけいこ)	29
	●	DA2004-126	A-3	きらっといきる 心の「バリア」をなくしたい！ ～石川大輔さん・ミカさん夫妻～	石川大輔さん・ミカさん夫妻はともに車いすで生活している。2人は「バリアフリーコンサルタント」として、講演や専門学校での指導などを行い、障害者の暮らしやすい町づくりを広く訴えている。「好きなところに行きたい。楽しみたい」という気持は、健常者も障害者も変わらない、と訴える石川さん夫妻。2人の姿を通じて、バリアフリーについて考える。(石川大輔・石川ミカ・牧ローニ)	29

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DA2004-127	A-3	福祉ネットワーク 障害者くらし情報 手のふれあいが盲ろう者を支える	視覚と聴覚の両方に障害を持つ盲ろう者。現在全国に約1万3000人の盲ろう者がいるという。盲ろう者のコミュニケーション方法は触手話、指文字、手書き文字など、その人のニーズによってさまざまな種類がある。番組では、大阪市の盲ろう者が運営するNPO法人すまいるの取り組みを紹介しながら、盲ろう者を支えるサポートのあり方を考える。(福島智・堀内万起子)	29
	●	DA2004-128	A-3	福祉ネットワーク 障害者くらし情報 災害から命を守る ～障害者の防災～	甚大な被害をもたらした阪神大震災では、障害者も多く被災した。災害が起きた時、災害弱者といわれる高齢者や障害者は、どうしたら自分の命を守れるのか。横須賀市では、地域と行政が一体になり、高齢者や障害者を災害から守る取り組みを行っている。緊急通報システムや、地域の取り組みを紹介しながら、災害から命を守る方法を考える。	29
	●	DA2004-129	A-3	福祉ネットワーク 障害者くらし情報 NHK障害福祉賞から② 体で感じて打ち鳴らせ!	横浜市立ろう学校では授業に太鼓の演奏を取り入れている。聴覚に障害を持つ子供たちも、太鼓なら、その振動を感じることができるからだ。教頭の石田さんは太鼓の指導にずっとかかわってきた。「いつか子供たちと海外で公演したい」夢に向かって練習を続ける姿を追う。	29
	●	DA2004-130	C-1	被爆58周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典「平和への誓い」山崎栄子さん 2003. 08. 09	被爆58周年となった2003年8月の「原爆の日」。その祈念式典で、ろうあ者として初めて被爆の惨状を訴えた山崎栄子さん。手話で語られるその証言は、多くの人々の心を打った。すでに世を去ったろうあ者の友人たちに代わり、平和の尊さと戦争の惨状を訴える。 この作品は、被爆58周年長崎原爆被爆犠牲者慰霊平和祈念式典の映像です。資料映像提供: NHK(山崎栄子)	7
	●	DA2005-138	A-3	きらっといきる 私たちのテレビは目で「聴く」! ～聴覚障害者のためのテレビ局～	『特定非営利活動法人CS障害者放送統一機構』。聴覚障害者自身が番組制作に携わる、聴覚障害者のための放送局がある。阪神淡路大震災時に聴覚障害者への情報保障が行き届かなかったことをきっかけに設立された。野球の実況にも、手話と字幕で同時に情報保障する。これらのリアルタイム放送は、緊急災害時の訓練にもなっているという。放送局スタッフの奮闘ぶりを紹介する。(ジェフ・バーグランド・小林紀子・牧ローニ)	29
	●	DA2005-139	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 「脳卒中 復帰への道」① 励まし合う患者たち ～ホームページでつながり～	脳卒中によって後遺症が残っても社会復帰を願う人が多い。その人たちの心のよりどころとなっているホームページがある。主催する金子さんは、脳卒中で倒れ後遺症が残ったが社会復帰を遂げた。その経験から、患者本人やその家族にアドバイスを送る。	29
	●	DA2005-140	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 「脳卒中 復帰への道」② 三たびの出血を乗り越えて ～元医師・後遺症との闘いの記録～	かつて整形外科の医師だった山田さんは、40歳の若さで脳卒中に襲われ、高次脳機能障害という後遺症が残った。山田さんは医師としての経験を生かし、自分の症状を客観的に見つめ、自分に合ったリハビリを行っている。脳卒中で倒れ、重い後遺症が残った1人の女性の日常を紹介する。	29
	●	DA2005-141	A-3	福祉ネットワーク 聞こえなくても踊りたい ～ろう者ダンサーの挑戦～	高木理叶(りか)さんは日本では数少ない手話ダンサー。3歳の時、高熱で失聴した高木さんは、幼い頃から歌や踊りが大好きでピンクレディーにあこがれていた。38歳でそれまで勤めていた会社を辞め、プロダンサーになるため専門学校をくぐった。今ではろう者にダンスを教えるかたわら、ろう者だけのダンスユニットをつくり活躍している。(高木理叶)	29
	●	DA2005-142	A-3	福祉ネットワーク たくましく育て難聴の子どもたち ～京都・かめかめクラブ～	京都市にある「教育ASSISTきこえことばのへや」は、民間の難聴児教室。幼児から高校生までの難聴児サークルである。集団の中で孤独感を味わいがちな彼らが、人とコミュニケーションする喜びを味わうことを活動目的としている。自ら台本を書いて表現する創作劇においては、単なる演劇活動にとどまらず、生きる意味や目的を求めることにつながっている。舞台までの厳しい練習が続く2週間を追う。(町永俊雄・片山高・かめかめクラブの子どもたち)	29
	●	DA2005-143	A-3	福祉ネットワーク 届け、「みんなのうた」 ～難聴のフォークデュオ・アツキヨ～	アツキヨの2人が、夢や曲作りについて語る。また、北千住で毎週行っている路上ライブの様子が紹介されるほか、スタジオで「僕らをのせたバスは」と「Kisaki」の2曲を歌う。(アツキヨ)	29
	●	DA2005-146	C-1	きらっといきる ものづくりは俺たちが支える ～東大阪 聴覚障害者の熟練工たち～	東大阪市の従業員220人の「パイプねじ切り機」の工場。ここでは、65年前から聴覚障害者を雇用してきました。現在14人の聴覚障害者が働いています。週3回の朝礼には必ず手話がつき、社員のほとんどが手話を理解しています。	29
	●	DA2005-147	C-1	ろうを生きる難聴を生きる 手話と教育 ～世界ろう連盟 ヨキネンさんに聞く～	2003年7月に世界ろう連盟理事長になったマルク・ヨキネンさん。ヨキネンさんは大学でろう教育の教師を養成する仕事をしている。年は44歳。母国フィンランドのろう教育や手話事情について、また国連で協議が続いている障害者の権利条約や国際協力などについてお話を伺う。インタビューは太杉豊さん。「なるほどコーナー」は、国際手話の単語について。(マルク・ヨキネン・太杉豊・宮本真紀)	15
	●	DA2005-149	C-1	福祉ネットワーク 光と音を失っても ～全国盲ろう者大会から～	ふだん、なかなか外に出ることが少ない盲ろう者にとって、年に1回開かれる全国大会は、仲間と触れ合える唯一の貴重な機会である。その全国大会の様子を紹介するとともに、盲ろう者の現状と課題や、パソコンを活用した新しいコミュニケーション方法にも、スポットを当てる。(福島智)	29
	●	DA2005-151	C-1	体いっぱい原爆を語りつく	平成15年8月9日。長崎平和祈念式典で、ろうあ者として初めて被爆者代表に選ばれ、手話で平和への誓いを語った山崎栄子さん。式典後は全国各地から講演の依頼が殺到した。次世代の人々に原爆を語り継ぐことが自分の使命だという山崎さんの忙しい日々を追う。(山崎栄子・長谷川勝彦)	49
	●	DA2005-156	C-1	わたしはあきらめない ピアニスト フジ子・ヘミング	5歳でピアノを始め、天才少女と注目されたフジ子。世界的有名な音楽家にも認められた。しかしデビューしようとした矢先、フジ子は両耳が聞こえなくなってしまう。それからピアニストとして活躍するまでのフジ子の姿を紹介する。(フジ子ヘミング・長嶋一茂)	29
	●	DA2006-004	C-1	ろうを生きる難聴を生きる 難聴者への情報保障	2005年に開かれた愛知万博での難聴者への情報保障について、実際に具体的な働きかけを行った名古屋難聴者・中途失聴者支援協会の高木さんからお話を伺うとともに、万博会場での情報保障の様子を取材映像で紹介する。 また、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会理事長の高岡さんに、難聴者への情報保障の実状とそれを踏まえた今後の全難聴の活動について伺う。(松森果林・高木富生・高岡正)	15
	●	DA2006-006	C-1	日本聴導犬協会紹介ビデオ 2004年制作	聴覚障害者の耳の代わりとなって生活を助ける聴導犬。そして身体に障害のある人の生活を助ける介助犬について紹介する。聴導犬はどんな仕事を行うのか。どんな犬が聴導犬に向いているのか。どんな訓練を受けて聴導犬になっていくのか。 日本聴導犬協会では、聴導犬の訓練と認定の両方を行っており、認定試験の様子も紹介される。(有馬もと・岸本淑子・澤和ひかる・大浦加津美)	26

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DA2006-157	A-3	きらっといきる いっしょに笑おう！ ～ろう者劇団・街さん夫婦～	ともに聴覚障害がある街(つじ)さん夫妻は、手話を取り入れた喜劇作りに取り組んでいる。聴覚障害者だけを対象にした手話劇でなく、聞こえる人も、どちらも同時に笑える劇をめざし奮闘する様子を紹介する。	29
	●	DA2006-158	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 発達障害の子どもたち 小学生への支援	LDやADHD、自閉症といった発達障害は、はた目には障害の状況が見えにくく、どう取り組んでいいのかわからない場合が少なくない。こうした発達障害をもった子どもを、親や教師はどのように支援すればよいのだろうか。 今回はアスペルガー症候群の児童のケースを通して、小学校における支援のあり方を考える。	29
	●	DA2007-001	A-3	きらっといきる 明日につながれ、ちいさな「できた！」 ～聴覚障害・安藤美紀さん～	生まれつき耳が聞こえない安藤美紀さんは、2005年小さなパソコン教室を開いた。生徒の大半は障害がある子どもたちだ。「できた！」という気持ちを大切に、ゆっくり少しずつ課題をクリアして自信を付け、パソコンでいろいろな力を社会にアピールしてほしい、と安藤さんはいう。パソコンは障害者が社会とつながる大きな力になると考える安藤さんと、教室で学ぶ子どもたちを紹介する。(安藤美紀・ジェフ・バーグランド・小林紀子・牧口一)	29
	●	DA2007-002	A-3	福祉ネットワーク 私が出会った手話の世界 おばあちゃんと話しかけた ～聞こえない世界と聞こえる世界の間に～	半澤宏美さんは、耳の不自由な祖母澄さんと同居を始めた。宏美さんの母親の啓子さんは、澄さんと昔から手話で自然に話してきた。母と祖母とが話す自在な手話のおしゃべりに、宏美さんはまだついていけない。おばあちゃんと暮らし始めて1年、手話の世界に入っていこうとしている宏美さんの日常をご紹介します。(半澤宏美)	29
	●	DA2007-003	A-3	福祉ネットワーク 検証・障害者自立支援法	障害者自立支援法はこれまでの障害者の種類別の区分けが無くなるなど新しい特色が打ち出されているが、一方で利用者負担が増えるなど波紋も呼んでいる。番組では完全施行された障害者自立支援法を施設の側から検証していく。(藤井克徳)	29
	●	DA2007-007	B-3	ろうを生きる難聴を生きる 手話通訳派遣事業のこれから ～障害者自立支援法を受けて～	障害者自立支援法を受けて、大きく変わろうとしている手話通訳派遣制度について考える。これまで都道府県が行ってきた手話通訳派遣制度を、市町村が担わなければならない。しかし、十分な通訳者の確保は難しい。そんな中、伊豆市が始めた画期的な方法を紹介する。全国手話通訳問題研究会副運営委員長の小出新一氏に、制度の変化や今後の課題についてたずねる。(小出新一)	15
	●	DA2007-014	B-3	徹子の部屋 薬剤師 早瀬久美さん	早瀬久美さんは日本で初めて薬剤師の免許を取得した聴覚障害者だ。聴覚障害者は、薬剤師法の欠格条項によって長い間、薬剤師の免許を取ることはできなかった。長年にわたる運動の結果、2001年ついに法改正が行われ、早瀬さんは第1号となった。免許を取得するまでの苦労、ご両親のことなどさまざまな経験を伺う。(黒柳徹子・早瀬久美)	26
	●	DA2008-001	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 社会起業家「オフィスマッサージ」をどうぞ ～盲ろう者の働ける企業を目指して～	目と耳に障害がある盲ろう者は、コミュニケーションの取りづらさから働き先がほとんどない。中にはマッサージ師の国家資格を取り、働く意欲も高いのに仕事が無い盲ろう者までいる。その盲ろう者たちに雇用の場を作り出そうとする起業家がいる。社会起業家の田辺大(たなべ ゆうたか)さん。田辺さんが始めた事業は企業への訪問式マッサージサービス。契約した企業の空き会議室に簡易ベッドを持ち込み、盲ろう者のマッサージ師を派遣するというものだ。マッサージサービスを通じ、盲ろう者の雇用創出、健常者と障害者の出会う場作りに挑む田辺さんの取り組みを追った。(服部篤子(お茶の水女子大学 非常勤講師)・町永俊雄)(NHK 『福祉ネットワーク』HPより)	29
	●	DA2008-002	A-3	福祉ネットワーク 緊急点検・日本のセーフティネット 第2回 病院がつぶれる 地域医療は守れるか	財政学者・金子勝さんが行く「緊急点検・日本のセーフティネット」第二弾。今回のテーマは医療。国は増え続ける医療費を抑制しようとする医療制度の抜本的な改革に乗り出しているが、それは現場にさまざまな痛みも生み出している。日本の医療はどこへ向かうかというのか、4回シリーズで伝える。 新潟県糸魚川市。人口5万の町を支えてきた中核病院の一つ、糸魚川医療生協・姫川病院(114床)が経営破たんのため、今年6月、突然閉鎖した。経営悪化の背景には、医師不足、度重なる診療報酬の切り下げなど、国の医療政策が大きく影響している。病院の閉鎖は、さらに大きな波紋を広げている。糸魚川市にあった、もう一つの一般病院・糸魚川総合病院に患者が集中し、混乱が続いているのだ。 病院閉鎖に揺れる糸魚川地域を舞台に、地域医療の現状をリポートする。(金子勝・町永俊雄)(NHK 『福祉ネットワーク』HPより)	29
	●	DA2008-003	A-3	福祉ネットワーク “里親”って知ってますか？	さまざまな事情から、実の親とは暮らすことのできない子どもたち。最近では、児童虐待の急激な増加も受け、その数は増え続けている。そうした子どもたちを家族の一員として迎え入れ、生活をともにするのが里親たち。子どもを取り巻く状況がつかないほど厳しい現在、里親に社会的な注目が集まっている。 シリーズの1回目は、具体的なケースを通して、里親の実情や思いを探り、里親制度が直面している課題や、里親制度が持つ可能性について、考えていく。(庄司順一(青山学院大学教授)・町永俊雄)(NHK 『福祉ネットワーク』HPより)	29
	●	DA2008-004	A-3	日曜フォーラム 超高齢社会と難聴	超高齢社会を迎え、注目されている「加齢と難聴」の最新の研究をふまえ、そのケアを話し合う。パネリストは、慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科教授の小川郁氏、筑波技術大学学長の大沼直紀氏、日本補聴器工業会理事・オーティコン株式会社社長の赤生秀一氏、元プロ野球選手・監督の中西太氏。(小川郁・大沼直紀・赤生秀一・中西太・好本恵)(～東京・千代田放送会館で録画～)	60
	●	DA2008-005	B-3	きらっといきる 手と手が心を開いていく ～「いこいの村」の仲間たち～	京都のろう重複障害者施設「いこいの村」で働く聴覚障害者の難波さんと、聴覚と視覚に障害を持つ入所者の山口さんがゲスト。 難波さんの施設での働きぶりや苦勞、施設内で結婚された山口さんと妻・保子さんのなれ初めや、助け合い支え合う生活の様子が紹介される。 び～ぶるび～ぶるのコーナーは、ALSという難病で入院生活をおくる西尾さんの詩を紹介。(難波学司・山口清臣・ジェフ・バーグランド・小林紀子・牧口一)	29
	●	DA2008-009	B-3	きらっといきる 振動を感じて駆け抜けろ！ ～聴覚障害・西田文彦さん～	奈良県に住む聴覚障害者の西田文彦さんは、世界で活躍するプロレーサーを目指している。しかし周囲からは障害者がレースをすることは危険だと言われていた。 夢をあきらめきれなかった西田さんは、ある人との出会いが大きなきっかけとなり、プロレーサーの夢に向かって進み出す。西田さんの夢に向かっての挑戦を紹介する。	29

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DA2008-010	B-3	きらっといきる 波に乗り世界へ ～聴覚障害・竹本裕行さん～	竹本裕行さんは徳島聾学校に通う16歳。夢はプロのサーファーになること。ろう者の父親も、かつてはデフサーファーの日本第1位だった。聾学校の寄宿舎に入っているため練習が十分にできなかったり、卒業後の進路のことなど悩みも多い。世界を目指す竹本さんの試行錯誤の日々を追う。(竹本裕行・牧ローニ・ジェフ・ランバート)	29
	●	DA2008-013	B-3	夢の扉 NEXTDOOR EPISODE132 聴覚障害者の生活圏を広げる機械を発明した男 齋藤勝	聴覚障害者がにとって便利な道具シルウォッチ。シルウォッチは、FAXの着信音や玄関の呼び鈴などの音を、文字と信号に変えて聴覚障害者に知らせしてくれる。この機械を開発したのが、齋藤勝さん。齋藤さん自身、聴覚に障害をもつ難聴者。自分が生活で感じた不便を解消するためにつくった機械が、今、さまざまな分野で活用され始めている。(齋藤勝・大榎エリカ)	25
	●	DA2009-001	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 障害者の就労(1) “就労移行新事業”は今	障害者自立支援法施行から2年。「福祉から就労へ」という自立支援法の理念を体現する新しい事業として注目を集めた「就労移行支援事業」が、最初の利用期限を迎えようとしている。この事業は企業などへの一般就労を目的に、必要な訓練や就職支援を行うというもの。働きたい障害者が、2年を限度にこの事業を利用し、企業に就職することを想定している。「就労移行支援事業」は、これまで少なかった福祉施設から企業への就職の道を開いた。しかし同時に、多くの福祉施設では、具体的な支援のノウハウや関係機関とのネットワークをもたないままスタートを切り、結果を出すことができずに苦悩している。 「障害者の就労」を考える2回シリーズ、1回目は自立支援法によって生まれた「就労移行支援事業」の現状を伝え、どのような課題があるのか検証する。(朝日雅也(埼玉県立大学社会福祉学科教授)・町永俊雄)(NHKオンラインHPより)	29
	●	DA2009-002	A-3	福祉ネットワーク シリーズ 障害者の就労(2) 働き続けるしくみをつくる	働くことを希望する障害者が、せっかく就職しても、すぐに離職してしまうことが問題となっている。職場の人間関係がうまくいかない、仕事にうまくなじめない…。どうすれば障害者にとっても、企業にとってもメリットのある働き方ができ、長期間の就労を実現できるのか？ シリーズ2回目のテーマは「働き続けるしくみをつくる」、障害者がグループになって役割分担しながら工場で働く例や、複数の企業が共同でNPOをつくり、障害者の就労・定着支援を行う新しい取り組みなどを紹介。 障害のある人が安心して働き続けるために必要な支援について考える。(朝日雅也(埼玉県立大学社会福祉学科教授))(NHKオンラインHPより)	29
	●	DA2009-012	B-3	未来創造堂 手話の未来を切り拓いた男 高橋潔	手の動きや表情で思いを伝える手話。しかし手話には大きな課題があった。新しい言葉や外来語など1文字1文字を表すことはできなかった。これを解決する方法として、現在の指文字がある。この指文字を考案するために尽力した高橋潔先生の取り組みを紹介する。(木梨憲武・西尾由佳里・白石美帆・柳沢なな)	25

DC. 記録・報道(歴史)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DC2000-036	C-1	クローズアップ現代 いまヒロシマを伝えたい	老朽化が進む原爆ドーム。このままではいつ倒壊するかわからない。原爆の悲劇を後世に伝えるために、ドームをどう保存していけばいいのか。また、我々人間自身が原爆の悲劇を伝えるためには、どうすればいいのかを考える。	29
	●	DC2005-052	A-3	社会情報 東京大空襲 ～ろう者が語る戦争体験2～	1945年3月10日未明、東京の下町を焦土に変えた東京大空襲。死者の数10万人、家を失った人は100万人ともいわれている。この空襲を経験した3人のろう者の証言を収録した。戦時中の暮らしなどの話もまじえながら、3月10日の出来事を振り返る。(齋藤日出男・鈴木哲郎・細山芳子・鈴木義夫)	46
	●	DC2007-001	A-3	壁を拓く、社会を開くⅡ 一昭和50年代のろうあ運動一	昭和50年代のろうあ運動は「4本柱」運動と呼ばれる権利獲得運動が中心だった。その中の1つ「差別的な民法11条改正運動」について紹介する。内容は、実際に差別にあった聴覚障害者の証言、弁護士の立場から見た改正前の民法11条の問題点、全日本ろうあ連盟の当時の活動などを野澤克哉先生の解説と共に紹介する。(野澤克哉・馬屋原亜季・高田英一・山田裕明・黒崎信幸・黄田規子・土谷道子)	51
	●	DC2009-004	A-3	壁を拓く、社会を開くⅣ ろう教育の歴史	欠格条項撤廃により、聴覚に障害があっても試験に合格すれば、医師や薬剤師の免許が交付されるようになった。しかし試験を受けることはできても、試験を受けるための教育方法については課題が残る。この作品では教育の中でも「ろう学校教育」に焦点を当て、ろう教育の歴史を伝える。(字幕つき)(野澤克哉・浜田豊彦・馬屋原亜季)	35

DD. 記録・報道(人間関係)(VHS)

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DD2005-124	C-1	スーパーテレビ情報最前線 雅子妃殿下はいま… ご成婚11年 真実の愛	雅子さまが皇室に入られてからの11年間を紹介する。特に、雅子さまがご公務を休まれてからの皇太子さまのご発言や、皇太子さまの恩師の発言を通して、雅子さまの苦悩に迫る。また、海外のロイヤルファミリーの暮らしも紹介する。	46
	●	DD2005-126	C-1	プロジェクトX 挑戦者たち 列車炎上 救出せよ 北陸トンネル火災	福井県敦賀市にある北陸トンネルは全長13.87キロメートル。技術の粋を尽くし、昭和37年に開通。だが10年後夜行列車きたぐにがトンネル中央部で火災を起こす。乗客760人の救助に当たった消防隊員と、1人の乗客から話を聞く。(国井雅比古)	43
	●	DD2005-127	C-1	プロジェクトX 挑戦者たち 駅伝日本一 運命のたすきをつなげ	男子全国高校駅伝で8回も優勝した兵庫県立西脇工業高校。日本一の工業高校と言われ、就職内定率100%。だが30年前、生徒たちはずさんでいた。その生徒たちを変えたのは、自分も劣等感に苦しんだ一人の教師だった。(国井雅比古・膳場貴子)	43
	●	DD2005-132	C-1	スーパーテレビ情報最前線 感動の家族愛! 極小未熟児 四つ子ちゃん子育て戦争5 43日	奈良県に住む松下茂樹さんと節子さん夫婦が3年にわたる不妊治療の果てに、やっと授かったのは四つ子ちゃん。かわいさは4倍だけれど、子育ての苦労も4倍。パパは子育てのために仕事を辞めて家計は火の車に。そしてついには夫婦の危機も…。子育ては戦争と言いきる松下さん一家の543日を追う。(江守徹)	46
	●	DD2007-009	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第1回 夜間中学校との出会い	昼間の学校が終わった夕方5時に年齢も生まれた国も違うさまざまな人が通う学校・夜間中学校。生徒は皆、昼間の中学に通えなかった人たち。その夜間中学で42年間、国語の教師として夜間中学一筋に教え続けた見城慶和さんに夜間中学との出会いを伺う。(見城慶和)	25

松江	浜田	分類番号	区分	番組名	内容	実時間
	●	DD2007-010	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第2回 生きる力を支える言葉	42年間、夜間中学校の教壇に立ち続けた見城慶和さん。夜間中学に通う生徒は時代と共に変わる。高度経済成長期は、終戦直後に中学に通えなかった人たちが大人になって夜間中学に入ることが多かった。その生徒たちの生きる力を支える「言葉」について伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2007-011	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第3回 不登校の君へ	1975年ごろから昼間の学校に通えない不登校の生徒が、夜間中学校に増え始めていった。心によろいを着せて、誰とも口をきかなかった生徒が、夜間中学で、みんなの前で初めて声を出して本を読むことができた。昼間の学校と夜間中学校はどこが違うのか。見城さんに夜間中学の教育力について伺う。(見城慶和)	25
	●	DD2007-012	B-3	知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第4回 「鈍行列車」で行こう	42年間にわたる夜間中学校の教師生活で、見城慶和さんは2000人を超える卒業生を送り出した。そして、2003年3月、見城さんは定年を迎え教師生活を終えた。しかし夜間中学校を卒業しても、更に「学び」を求める人は多い。見城さんの「学び」に対する思いを伺う。(見城慶和)	25